● 最近の県内経済

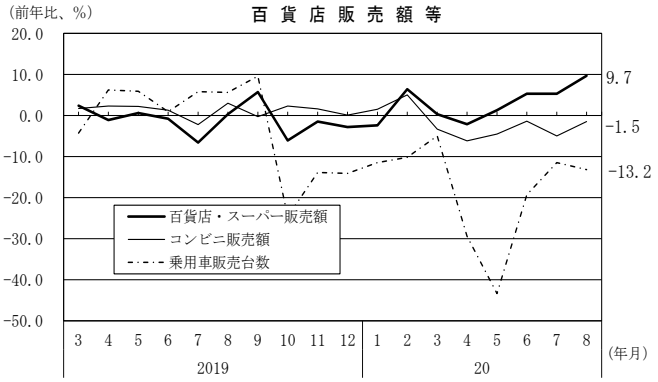
基調判断

（2020年8月を中心として）

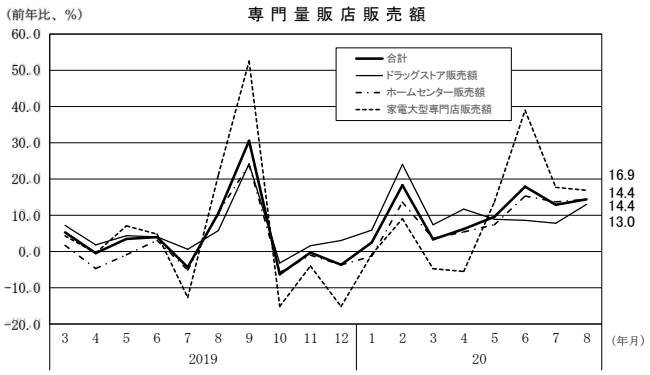
今月の概要

県内景気は、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響から、依然として厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。

1 個人消費　一部で持ち直しの動きがみられる



（資料）経済産業省、埼玉県自動車販売協会など



（資料）経済産業省

8月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、1,125億円で前年比9.7%増と4か月連続の増加となった。百貨店は同9.7%減と11か月連続の減少となった。一方、スーパーは同11.8%増と7か月連続の増加となった。また、コンビニ販売は561億円で同1.5%減と6か月連続の減少となった。

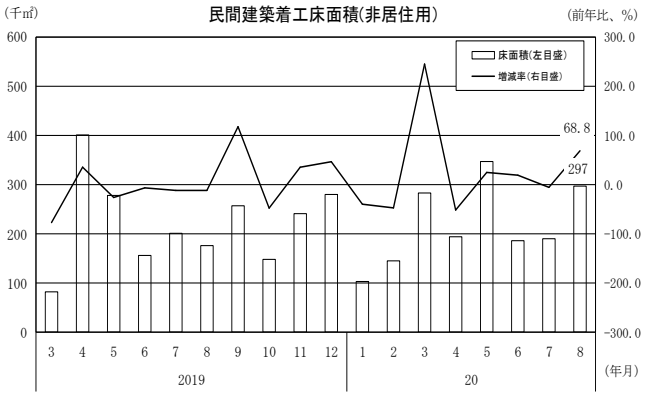
乗用車販売は、同13.2%減と11か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同17.3%減）、小型車（同14.5%減）、軽乗用車（同7.9%減）ともに減少した。

8月の専門量販店販売額は、828億円で前年比14.4%増となった。内訳をみると、家電大型専門店が226億円で同16.9%増、ドラッグストアが399億円で同13.0%増、ホームセンターが202億円で同14.4%増となった。

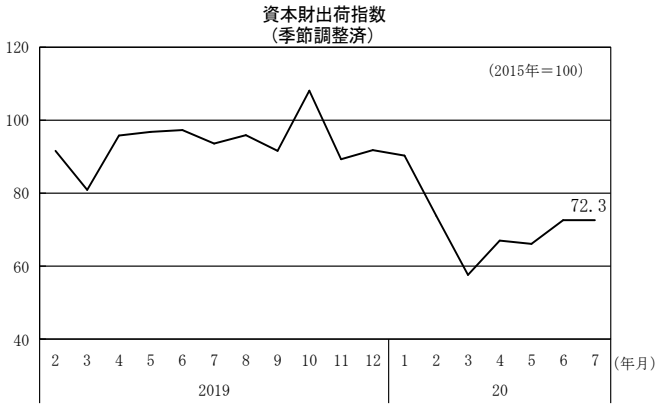
個人消費は、一部で持ち直しの動きがみられる

関東の消費者態度指数（原数値）は、7月〈28.7〉、8月〈28.7〉、9月〈32.1〉で推移している。

2 設備投資　下げ止まりつつある



(資料)国土交通省



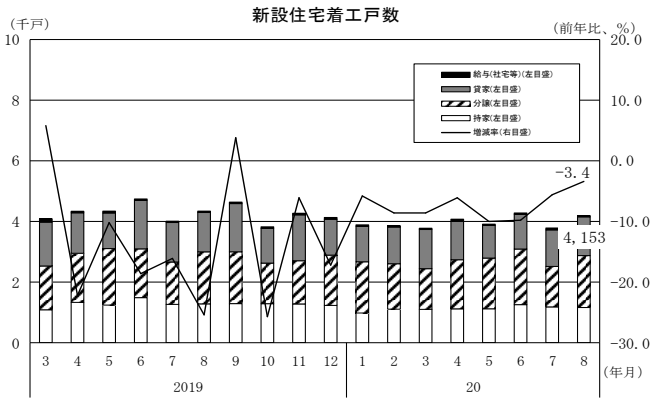
(資料)埼玉県

8月の民間建築着工床面積（非居住用）は、297千㎡で前年比68.8%増となった（年初来累計では同0.3%増加）。

用途別にみると、倉庫、病院・診療所が増加した一方、事務所、店舗はいずれも減少した。

7月の資本財出荷指数（季節調整済）は、72.3で前月比0.4%の減少となった（2か月ぶりの減少）。

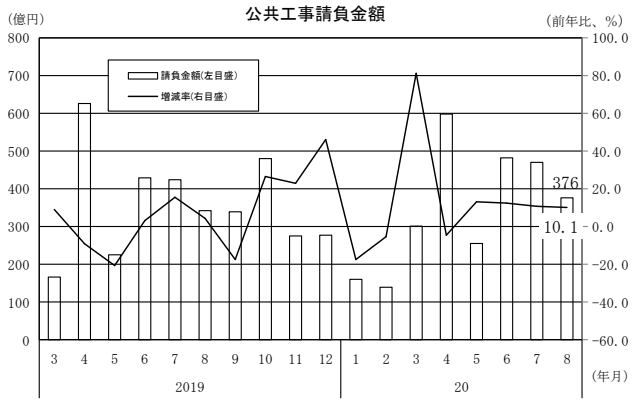
3 住宅建設　減少



(資料)国土交通省

8月の新設住宅着工戸数は、4,153戸で前年比3.4%減と11か月連続の減少となった。利用関係別にみると、持家（1,161戸）が同9.4%減、貸家（1,278戸）が同1.5%減、分譲マンション（754戸）が同61.5%増、分譲一戸建（947戸）が同23.2%減となった。

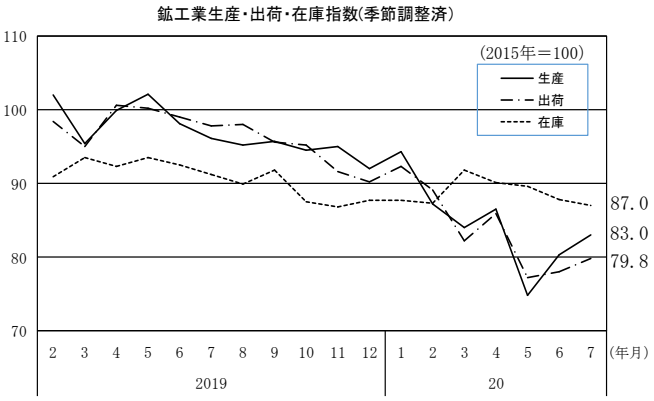
4 公共工事　増加基調



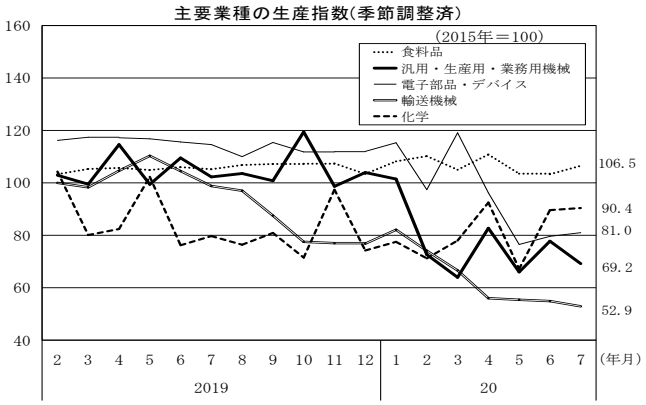
(資料)東日本建設業保証株式会社

8月の公共工事請負額は、376億円で前年比10.1%増となった（5か月後方移動平均でみると前年比6.6%増）。発注者別でみると、都道府県は減少したものの、国、独立行政法人等、市区町村は増加した。

5 生産活動　　下げ止まりつつある



(資料)埼玉県



(資料)埼玉県

７月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、83.0で前月比3.4%上昇(2か月連続の上昇)。生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、包装・荷造機械)、輸送機械（自動車エンジン、乗用車）などが低下したが、情報通信機械（カーオーディオ、カーナビゲーション）、印刷（平版印刷、おう版印刷）などは上昇した。

出荷指数（同）は、79.8で同2.3%上昇した（2か月連続の上昇）。生産用機械（フラットパネル・ディスプレイ製造装置、包装・荷造機械）、輸送機械（自動車エンジン、乗用車）などが低下したが、情報通信機械（ガス警報器、カーナビゲーション）、非鉄金属（アルミニウム圧延製品、ダイカスト）などが上昇した。

在庫指数（同）は、87.0で同0.9%低下した（4か月連続の低下）。汎用機械（ﾎﾟﾝﾌﾟ）、輸送機械（普通トラック、けん引車）などが上昇したが、パルプ・紙・紙加工品（段ボール原紙、衛生用紙）、生産用機械（整地機械、マシニングセンタ）などが低下した。

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、106.5で前月比3.1%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

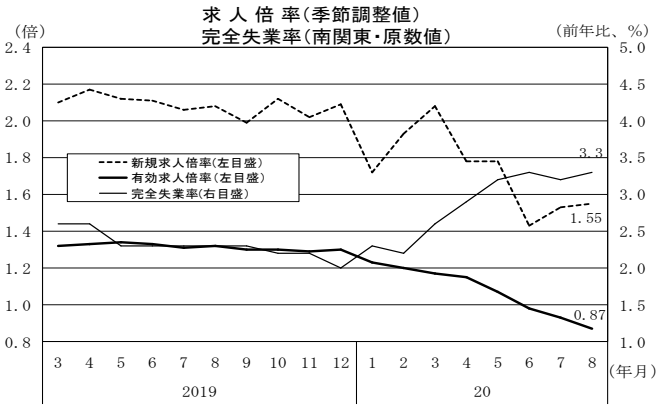
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、69.2で同11.0%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は81.0で同1.8%上昇し、2か月連続の上昇となった。

◆ 輸送機械（同）は、52.9で同3.0%低下し、6か月連続の低下となった。

◆ 化学(同)は、90.4で同0.9%上昇し、2か月連続の上昇となった。

6 雇用情勢　悪化している

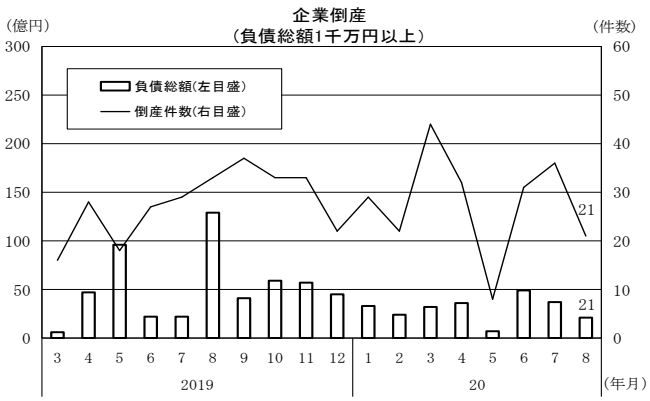


（資料）厚生労働省、総務省

8月の有効求人倍率(季節調整済)は、0.87倍で前月比0.06ﾎﾟｲﾝﾄ低下した（8か月連続の低下）。3か月連続で1倍を下回った。新規求人倍率(同)は、1.55倍で同比0.02ﾎﾟｲﾝﾄ上昇した。

完全失業率（南関東、原数値）は、3.3%で前年同月比1.0ﾎﾟｲﾝﾄ上昇した。

7 企業倒産　一進一退



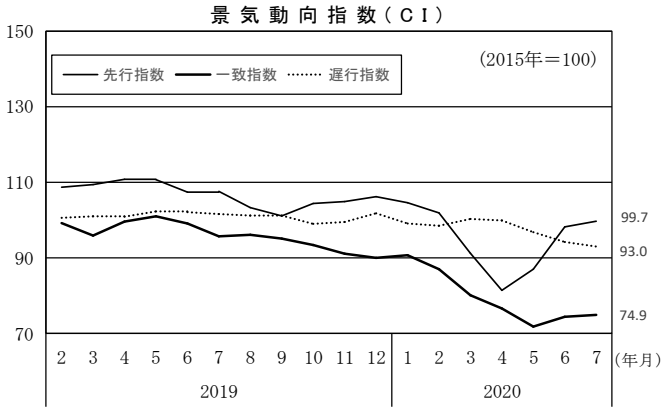
（資料）帝国データバンク

8月の企業倒産件数は、21件で前年同月比12件の減少となった。負債総額は21億円で同108億円の減少となった（5か月後方移動平均で見ても、件数は前年比5.2%減、金額は52.5%減）。

業種別にみると、建設業が9件で最も多く、次いで卸売業が4件、小売業とサービス業がそれぞれ3件と続いている。主因別では、販売不振が15件となっている。

〈参考〉

景気動向指数（CI）　悪化を示している



（資料）埼玉県

7月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、74.9で前月比0.5ﾎﾟｲﾝﾄ上昇し、2か月連続の上昇となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、99.7で同1.5ﾎﾟｲﾝﾄ上昇し、3か月連続の上昇となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、93.0で同1.2ﾎﾟｲﾝﾄ低下し、4か月連続の低下となった。